

第1学年の取組

(1) 実践内容 「みんな なかよし」

① はじめに

思いや考えを交流し、互いに高め合うためには、言語活動を通した思考力・判断力・表現力や、話したり聞いたりする力が必要となる。そのために必要とされる言語活動の基礎を養うために、様々な話形、説明の仕方、話し合いの仕方を知り、習熟を図ることに重点をおき実践を行っていかうと考えた。また、学習した話形や話し合いのパターンを、生活科を中心とした学習の中で活用することで、思いや考えを交流させる経験を積み重ね、学び合おうとする意欲を高めたいと考え、実践計画を立てた。

② 高め合いの授業を含んだ活動テーマ

言語活動の基礎の定着を図り、学習した内容を生かして思いや考えを交流させるとともに、地域との関わりも作りながら下記のような活動を進めた。

ア 言語活動の基礎を養うための国語科の主な学習

- ・ どうぞよろしく（4月）
- ・ たからものをおしえよう（6月）
- ・ すきなこと、なあに（6月）
- ・ こんなことをしたよ（7・8月）
- ・ しらせたいな、見せたいな（10月）
- ・ きいてしらせよう ともだちに、きいてみよう（11月）
- ・ ことばって、おもしろいな（1月）
- ・ ふたりでかんがえよう（2月）
- ・ いいこといっぱい、1年生（3月）



【国語科でのペアによる話し合い】

イ 思いや考えを交流させる経験を積み重ね、学び合う意欲を高めるための、生活科を中心とした学習

- ・ 学校探検や校区探検での気づきの話し合い（4・5月）
- ・ あさがおの栽培を通した話し合い（6月）
- ・ 地域に花を届ける活動のための話し合い（6月）
- ・ 図工作品鑑賞会での思いや考えの交流（9月）
- ・ 秋みつけでの気づきの話し合い（9・10月）
- ・ 命の学習とその後の思いや考えの交流（10月）
- ・ 保育園児や保護者を招いて行う総合学習発表会に向けた話し合い（11月）
- ・ 昔の遊びを通じた地域の方とのふれあい（1月）
- ・ 新しい一年生を迎えるための話し合い（2月）

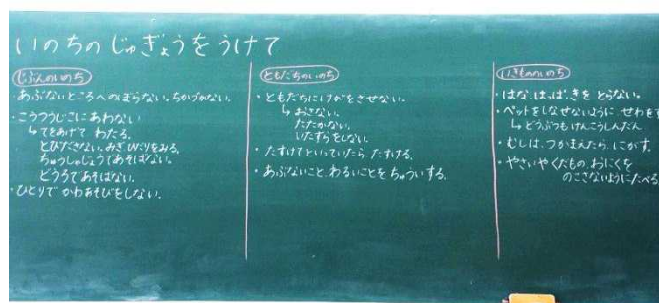


【写真上段左：種子の違いについて話し合う

写真上段中：地域にあさがおを届ける活動

写真上段左：図工作品鑑賞会

写真下段：命の授業を受けた後での話し合いで出た児童の意見】



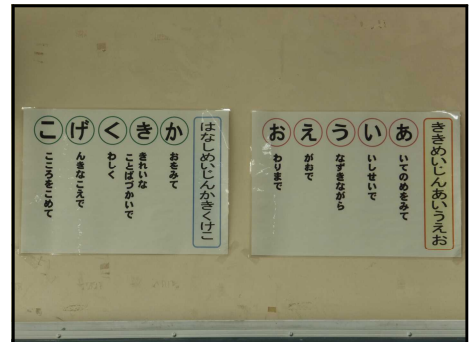
③ 国語科 単元「きいてしらせよう ともだちに、きいてみよう」(本時2/4)

ア 導入の様子

実践した単元「きいてしらせよう ともだちに、きいてみよう」の授業(本時)では、「いつ」「どこ」「誰」「なに」などを使って尋ね、大事なことを落とさないようにインタビューすることをねらいとした。

インタビュー活動をするにあたり、授業の冒頭部分で教室に常掲されている「話し名人」(かおをみて きれいなことばづかいで くわしく げんきなこえで こころをこめて)「聞き名人」(あいてのめをみて いいしせいで うなずきながら えがおでおわりまで)を全員で声を出して唱えた。この「話し名人」「聞き名人」になれるように、話したり聞いたりするときに留意すべきことを全員で確認した。

さらに、一人の女の子が縄跳びをしている絵を子どもたちに見せた。そして「先生は今、なわとびをすることが一番楽しいんだ。でも、この絵は縄跳びをしているっていうことしか分からないね。他にも詳しく知りたいね。もっと詳しく分かるようにいろんなことを聞いてください」と投げかけた。子どもたちからは「何跳びができますか」「何回跳べますか」「どこでやっていますか」などといった質問が出た。それらの問いに「二重跳びができます」「5回できます」「家の前でやっています」と答えながらその情報を縄跳びをしている女の子の絵に描き加えていった。最後には「いつ」「どこで」「だれと」「なにを」「どのように」「なぜ」のいわゆる5W1Hの情報を全てイラストに描き加えた。質問者が5W1Hで質問をすれば、相手の考えや思いを詳しく聞き出せるというインタビュー活動の基礎を確認することができた。絵を使うことで、1年生の子どもたちは興味をもって導入の場面に取り組むことができた。



【話し名人・聞き名人】

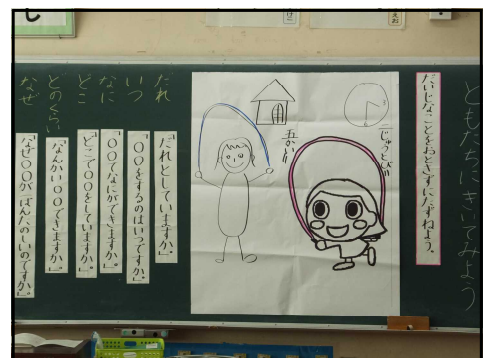
イ 展開の様子

展開の場面では、導入で確認した「いつ」「どこで」「だれと」…といった5W1Hを、実際のインタビューの中でどのように使うかを知るために話型を提示した。「○○をするのはいつですか」「どこで○○をしていますか」「だれとしていますか」…と具体的に話型をフラッシュカードで示すことで、この後に計画したインタビュー活動の助けとしたいと考えた。

本時の主となる活動であるインタビューをする場面では、話型を活用しながらインタビューを進めることができた。黒板にある話型フラッシュカードを見ながら質問をしている姿も見られた。問答が滞ってしまうペアには、黒板の話型フラッシュカードと同じ話型が書かれたヒントカードを渡し、「次これ聞いてごらん」と声をかけて支援をした。黒板に書かれた話型と同じものがヒントカードとして手元にあることで、「これを探ねればいいんだ」と安心感があつたようで、なんとかインタビューを続ける子どもの姿が見られた。

また、質問者と回答者の役を交代して、2度目のインタビューをしたが、その前に、1度目のインタビューで上手に問答できたペアを模範として前でインタビューの仕方を発表させた。子どもたちは「こうやって質問を進めていけばいいんだな」「こうやって答えればいいんだな」とイメージがわいたようで、交代後の2度目のインタビュー活動は、1回目に比べてスムーズに進められた。

難しかった点としては、インタビューした内容をメモする活動である。メモをとることは本単元で初めて学習する内容となる。聞いたことをその都度メモするには時間がかかり、メモをするたびにインタビューの流れが止まってしまうと考えたため、インタビューのやりとりを全て終えてからメモをする時間をとることにした。しかし、メモをとる場面で相手が答



【視覚的に訴える縄跳びの絵と話形のフラッシュカード】

えてくれたことを忘れてしまい、再度聞き直しているペアも少なくなかった。本時では、インタビューが主となる活動であったが、短時間でメモをとるということも、今後取り組んでいかねばならない学習内容である。

ウ 高め合いの場面の様子

高め合いの場面では、インタビューをした感想の交流をした。「友達について新たな点を知ることができたな」「あの子についてこんなことを知ったのは初めてだったな」「この点は友達と自分是一緒だな」などと、友達と自分の似ているところ、違うところに気づくことができたなら、高め合いができたと考え、この場面を設定した。

子どもたちからは、「聞くのは緊張した」「いっぱい聞けて良かった」「友達のことを知れておもしろかった」「友達のことがよく分かった」といった意見が活発に出された。子どもたちなりに考えたり感じたことを、それぞれの言葉で発表することができた。



【インタビューの様子】

エ 児童の感想や教師の反省

高め合いの場面では、ウで述べたように、自分との共通点や相違点について気づいてくれることを願って、感想交流の場面を設けた。しかし、実際には友達とのかかわりの楽しさやおもしろさについては気づけたようだが、具体的に自分と似ているところ、違うところに気づき、発表するところまでは迫ることができなかった。「緊張した」「良かった」「おもしろかった」から一歩踏み込んだ感想を教師の発問により引き出せたのではないかと考える。

④ その後の活動

本時の終末部分で、インタビューが活発にできたことを賞賛し、次時以降では友達の紹介文を作り、さらにそれをクラスの人々に発表する学習をしていくということを予告した。積極的にインタビューできた子どもが多かったため、多くの子が取材内容を友達に知らせたいという気持ちで紹介文づくりにも意欲的に取り組めた。紹介文づくりを苦手だと感じている子どもも、インタビューの場面で少なくとも3つは質問をするという約束があったため、取材した材料を3つは持っていた。それをもとに、全員が紹介文を完成させることができた。

紹介文の発表場面では、原稿もできあがっていたため、自信をもって発表をすることができた。紹介を聞くことに関しては、友達について知ることに関心をもっている子どもが多いため、本時でも確認した「聞き名人」に留意しながら、興味深く耳を傾けていた。

(2) 実践の成果と課題

5W1Hについては、1学期の既習内容であり、本単元では話型の確認もした。話型があったことで、安心感や自信につながり、初めてのインタビュー活動であったがスムーズにインタビューを進めることができた。支援が必要となる児童にとっては、5W1Hである「いつ」「どこで」「誰と」「何を」などは分かったが、実際の問答の中でどうやって聞いたらよいか分からない様子であった。話型があることで教師側もヒントカードで示しながら「これを聞いてごらん」と支援をしやすいかった。基礎を身につけることでインタビューをすることができるという経験がどの子どもでもできた。

また、教室に掲示されており、本時の導入部分でも全員で唱えた聞き名人「あいてのめをみて いいしせいで うなずきながら えがおで おわりまで」があるが、この中の「うなずきながら」や「えがおで」は、なかなかできていない。子どもたちのこれからの話し合い活動や交流活動の中で、話型などの基礎も大切ではあるが、さらに子どもたちが高め合っていくためには、「笑顔でうなずき」や「相づち」をして相手に共感を伝えることが必要となると考える。今後の指導の中で身につけさせていきたいコミュニケーションスキルである。